



中崎消防士長 第41回全国消防職員意見発表茨城県大会に出場



▲発表する中崎消防士長

2月8日、小美玉市四季文化館「みのーれ」で、第41回意見発表茨城県大会が開催されました。この大会は、県内24の消防本部から選ばれた消防職員が日頃の業務に対する問題などから、これからの消防業務のあるべき姿や職務における提案、取り組みを発表する場として毎年開かれています。当本部からは中崎雅消防士長が代表として壇上にあがりました。

救急利用に対する課題をあげ、本当に救急車が必要な方々に使用していただき、より質の高い救急活動を行うために救急の有料化を全国初として

試験的に導入し、有料化によって支払われた費用で、AEDを施設などに寄付したり、救急業務の維持管理に充てることで救急活動のインフラを整備しつつ、救命率の向上につながるについて聴衆を前に意見を発表しました。

最優秀賞を受賞した消防職員は、関東大会に出場し、勝ち進むと全国大会に出場することができます。

渋川広域消防消火戦術勉強会を開催

当本部職員有志によって組織された自主勉強会が主催となり、渋川広域消防消火戦術勉強会を開催しました。

平成28年12月22日に起こった糸魚川の大規模火災では約140棟の建物に燃え広がり、“延焼”の恐ろしさを痛感する機会になりました。その“延焼”を阻止するために独自で研究し対策に取り組み、その成果が全国的に注目されている渋川市広域消防本部(群馬県渋川市ほか2町村を管轄)から青山消防長、岩崎講師、高野辺講師を招き、2日間にかけて独自の「渋消式消火戦術」を学びました。

1日目 渋消式の背景や実際に使われている資機材などについて講義が行われました。



右から青山消防長、高野辺講師、岩崎講師



約4時間におよぶ貴重な講義



実際に使用している資機材の展示

2日目 屋外にて渋消式吸管延長およびホース延長を実施しました。



吸管的取り方から学びました



無駄なく迅速に延長します



独自に開発されたホースバッグでの延長

火の取扱いに注意 ~実際に起こった火災の事例~

先月、県内で線香を着けようとした火が山に燃え移った事例がありました。

墓参りに来ていた女性が、線香に火を着けるため新聞紙に点火し、その火を消すための水を汲みに行っている間に山林に燃え広がり、火災になってしまいました。

この火事で、墓地北側の山林約2.3アールが焼失しました。

昨年には同様の事案が、栃木県でも発生しています。

また、線香自体の微小火源による火災も少なくありません。

40時間前につけた線香が仏壇から落ち、火の出ない状態のまま長時間かけて畳を焼け抜き、床下の梁や柱まで延焼した事例もあります。

多くの火災は、ちょっとした気の緩みなど、火災に対する警戒心が十分でない時に発生します。

特に線香などの微小火源は、見た目の小ささから“大丈夫だろう”と油断をしまいがちです。

専用のライターや容器などで、燃えやすいものがない場所で消火の準備をしてから専用のライターや容器などを使用してください。

特に乾燥している冬の期間、完全な火の始末を心がけ、安心安全な毎日をお過ごしください。

119番



■問い合わせ■
消防本部 ☎54-0119